

息軒噺（ばなし）第二話 「虎斑竹（こはんちく）」の噺

虎斑竹は「とらふだけ」とも呼ばれ、菌類の働きで竹の表面に虎の文様が入った非常に珍しい竹です。安井息軒は江戸に旅立つ時に、同じ飢肥藩領であった田野からこの竹を持っていき、故郷を懐かしむとともに、三計塾の講義をする部屋を「斑竹山房」（はんちくさんぼう）と命名していました。

実は三計塾は、江戸で場所を20回も変わりました。ほとんどの場合、塾は2階建てで、1階の3畳や4畳半の小部屋が塾生の寮で（通常一人分が1畳程度）、2階が「斑竹山房」と呼ばれる講義室になっていました。虎斑竹で作られた「斑竹山房」の額と、「斑竹山房学規」が掲げられていたということです。学規は5か条から編成されていましたが、最初の部分を紹介します。

- 一 諸君らの父や藩主が学問するように命じたのは、国（藩）に尽くし、家を盛んにしてほしいと願ったためである。身を修め、民を救う、「修身」と「済民」が最も大事である。

さらに安井息軒71歳の誕生日、厚い信頼関係にあった飢肥藩の藩主、伊東祐相公は体の弱ってきた息軒のために虎斑竹でできた杖を準備させ、息軒にプレゼントしました。それに対して息軒は、古来よりの歌「一ふしに千代をこめたる杖ならば、つくともつきじ君のよわいは」の一部を変歌し、「一ふしに千代をこめたる杖ならば、つくともつきじ君のめぐみは」の歌を、祐相公に贈ったとのことです。

その幻の虎斑竹を今回の企画展において安井息軒顕彰会副理事長の諸岩則俊氏が県内の持ち主から譲り受けて、杖や額などに細工しました。今回の企画展においてはこのような虎斑竹のグッズも展示しています。



安井息軒の精神や考え方を色濃く受け継ぎ、息軒亡き後、安井家の後見を務めた、息軒の一番弟子とも言えるべき土佐出身の谷干城（たてき）は安政6年（1859）に息軒に入門しました。後年、入門当時のことを懐かしく思い出して、『隈山詒謀録（わいざんいぼうろく）』に記すとともに、当時の「三計塾記」を書き起こしています（本館所蔵）。

谷干城は西南戦争の折には、熊本鎮台の司令長官として熊本城に立てこもり、これを死守しました。その活躍ぶりは西郷隆盛をして「政府軍にもこのような男がいたのか」と言わしめました。

その後、西郷軍は敗走を余儀なくされました。谷は第一次伊藤内閣の下で初代の農商務大臣等を務めるなどして活躍しました。

息軒茶道教室



茶室「香梅庵」にて茶道教室を開講します。ご希望される方は、本館までお電話等でご連絡ください。（定員8名）講師は青木りつ子先生です。息軒についても学びます。

- 期日 10月7・14・21・28日、11月4・11日
- 時間 9:30～11:30 (全6回)

安井息軒記念館講座

第4回講座 「論語4題」

講師 元きよたけ歴史館館長
神川 孝志 氏

- 期日 9月16日（土）
- 時間 10:00～11:45
- 場所 安井息軒記念館
- 申込 1ページ目タイトル
の連絡先で参照の上、本館までお電話等でご連絡ください。

秋の息軒ウォーク

宮崎市安井息軒記念館開館以来、初となります「息軒ウォーク」を開催します。

本館周辺の息軒ゆかりの地を探索し、より身近に息軒を感じてみませんか。同時に、来年度予定しているボランティアガイド養成に関心がある方の参加も募集しています。

- 期日 10月22日（日）
- 時間 9:00～12:00
- 集合 宮崎市安井息軒記念館
※詳細は10月10日（火）までにご芳名、ご住所、ご連絡先を本館へお知らせください。